

Visit the customer お客さまを訪ねて



POINT 01 熊野古道の東の入口に開業

熊野古道の中でも屈指の難所とされる八鬼山の程近く、眼下に尾鷲湾を望む高台にあるのが三重県立熊野古道センターです。2004年7月、熊野古道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されたことを受け、熊野古道に関する情報を発信するビジターセンターとして2007年2月に開館しました。熊野古道の三重県内区間である伊勢路とその周辺の自然や歴史、文化について広く発信するほか、文化財の保全・活用などにも取り組み、熊野古道の東の入口としての役割を担っています。

POINT 03 地形模型など展示内容も多彩

展示棟では、熊野古道を中心とした地域の歴史や文化、自然の魅力を紹介する常設展示に加え、年6回の企画展示を行っています。常設展示の見どころの一つが、フロア中央に配置された直径約3mの地形模型です。主任コーディネーターの東美沙さんは、「伊勢路だけでなく熊野古道の全体像を俯瞰して見られるのでおすすめです」と話します。熊野古道に関する5つの映像が鑑賞できる映像ホールのほか、周辺の生物や植物を紹介するパネル展示、地域の民話や祭りに関するコーナーなども用意されています。

POINT 02 講演会や料理教室などを開催

センターの建物は「交流棟」「展示棟」「研究収蔵棟」の3つに分かれています。交流棟では、熊野古道の情報を求めてやってきた方への案内を行うほか、絵画を展示したり、コンサートや講演会を開催したりしています。大小のホールに加え、体験学習室や和室があり、工作などのイベントの場としても活用されています。センターが定期的に主催している三重県立相可高等学校の先生と生徒による料理教室が人気を集めているほか、最近では見晴らしのよい和室や芝生広場を利用してヨガを楽しむ人たちも多いそうです。

POINT 04 来年は世界遺産登録20周年

2023年12月には、毎年恒例の企画展「わが郷土のお祭り」を開催。今回は御浜町の「尾呂志神社例大祭」を取り上げ、地域に息づく文化や歴史を紹介します。「これからも地域住民の皆さんと、遠方から訪れる観光客の方々との交流の機会を作っていききたい」と話す東さん。2024年は熊野古道が世界遺産に登録されて20年の節目の年となります。新たに全長約170kmの伊勢路を歩くツアーを企画するなど、これからもさまざまな活動を通じて、熊野古道に興味を持つファンの拡大に向けて力を注いでいくそうです。



kumanokodocenter

多彩な映像やパネルで熊野の魅力を余すところなく紹介



常設展示室 熊野古道とその周辺の歴史、自然、文化について、実物資料やレプリカ、映像などで分かりやすく紹介し、熊野の魅力を伝えています

企画展示室 貴重な資料を全国各地から集め、テーマを絞った詳細な企画展を開催しています



映像ホール
ハイビジョン映像で熊野古道の歴史や景観などを常時放映



大ホール・小ホール
尾鷲ヒノキの香り漂う大空間で交流イベントなどを実施



体験学習室・和室
東紀州の素材を生かしたバラエティ豊かな体験学習を開催



研究収蔵棟
重要文化財に対応した特別展示室と図書資料室があります



多彩な展示や体験教室を通じて
東紀州に息づく歴史や文化を
現代に伝える熊野古道の案内役

日本の伝統を感じる無垢材に囲まれた大空間

熊野古道にふさわしい木造の建物とするため、尾鷲ヒノキ、熊野杉をふんだんに使用。市場に流通する一般的な規格の木を組み合わせた新しい構造システムを採用し、角材を束ねて作られる組柱・組梁・組壁で構成された建物は、端正な日本建築の伝統を守りながら、木造の直線的な美しさ、力強さを表現しています。

〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4
TEL:0597-25-2666 <https://kumanokodocenter.com/>



ひのきの大空間

保安協会さんへ

三重県立熊野古道センター
業務課
有竹 満さま



大幅にコストを削減できました

中部電気保安協会さんには、2カ月に1回の定期点検をお願いしています。開館から年数も経過していることから、必要に応じてケーブルなどの交換をご提案いただくなど、当館の安心・安全な運営に幅広く貢献していただいています。また、5年前に導入した電力デマンド監視システムのおかげで、30%ほどのコスト削減も実現することができました。担当の山本さんとは6年ほどのお付き合いになりますが、本当に頼りにしています。



建物の年数が経過すると、どうしても設備の老朽化も進行します。今後も計画的な改修のご提案などをさせていただきながら、来館されるお客さまが安心して施設をご利用いただけるよう、運営をお支えしていきたいと考えています。
尾鷲営業所 山本 和弘

熊野古道センターのイチオシ!

伊勢路を再現したリアルなジオラマ

常設展示室には、伊勢路の象徴的なシーンを再現したジオラマが置かれています。なかでも「西国第一の難所・八鬼山越え」のジオラマでは、オオカミや山賊が出るため、地域住民も夜間の通行を避けていた峠を、巡礼のため危険を顧みず進んでいく光景がリアルに再現されています。

